



# Nepal Blind Support Association

ネパールの視覚障害者を支える会(NBSA)会報 第35号 2013年3月

NBSA: <http://NBSA.sakura.ne.jp/>

主内容: ネパールを渡る(様々なネパールの移動手段)/定例活動報告/ネパールの交差点: 信号機とロータリー  
ネパールビールあります / 純ちゃんのネパール旅行/ネパール語ってどんなことば/アッサンの街角/お知らせ

**行く、来る、進む、戻る、帰る、出る、入る、ネパール民族大移動その**

人や動物が様々な形態で移動する姿を写した「ネパールを移動する」は大好評。写真家の長谷川氏の作品です。



歩く その先には何があるのだろうか。天国か?それとも地獄?それでもまた人は歩く。そしてまた一步一步と。



駆ける 誰よりも早く そして誰よりも遠くへと

### 1月の定例活動

オーディオライブラリ事業、トーキングブック。私たちは様々な小説や教科書などを読み上げ、それをCDに移しかえ、多くの方々に原価20円で差し上げていました。本を読み上げてくださるボランティアの方々には、1日150円の交通費とお茶菓子を午後に出しています。貧しいネパールで、このような愛がなければ続けられない仕事です。

しかし会の経費では、一気に賃上げはできません。そこで現地で役員会を開き、今後トーキングブックの利用者から、本一冊につき約50円を頂くことにしました。これまでの倍以上の金額になるのですが、どなたからも文句が出ず、すんなり承認していただいています。

### 2月の定例活動

#### オーディオライブラリ事業

成人及び大学生向け教科書の音訳をしました。ちなみに音訳とはペンや印刷された文字を声を出して読み音声化することを言います。ネパールには自動音声化するような機械がありません。そこで1冊1冊まじめなボランティアさんが読んで、コンピューターにダウンロードします。

#### 点字情報誌タッチ

ネパール唯一の点字情報誌。タッチの作成、やや年配の方々に喜ばれています。やっぱり自分の指で一文字一文字読んだほうが理解しやすいし「すんなり頭に入っていきのいいね」と言ってくださいます。現在タッチ35号の製作中です。

#### おしらせ 事務所の開館日が変わりました

今年も電力が不足で作業が難しくなり、1月から週2回、水曜日と土曜日開館しています。深刻な水不足も懸念され、ボランティアやスタッフへのお茶も儉約が必要になりました。もしかしたら4月頃には事務所の開館が、さらに短縮される可能性があります。見学を希望される方は事前にお電話ください。(ビソ・アディカリ 携帯番号：98510-42460 カトマンドゥ 日本語OK)

写真：左はNBSAの音訳ボランティア。 右は盲学校の先生。点字タイプを手伝ってくださいます。



## ネパールの交差点：信号機とロータリー

谷川昌幸

ネパールに行くたびに不思議に思うのが、交通信号機である。カトマンズ盆地の主要交差点には、日本などの援助で信号機が設置されているが、それらのほとんどすべてが消灯か点滅であり、赤・黄・青と常時正常に機能しているものは、まず見かけない。日本の常識で考えると、交通信号は最重要インフラであり、信号機があるのに消灯であれば事故多発、人命に関わる一大事である。ところが、カトマンズでは、最新式信号機が設置されていても、たいてい消灯。これは不思議。なぜだろう？

### 1. 信号機の技術的不適正

交通警察に問い合わせたわけではなく推測にすぎないが、理由の一つは、おそらく電力事情であろう。カトマンズでは、乾期には一日十数時間の計画停電となる。突然の停電も少なくない。もし交通信号がその都度点灯・消灯となれば、混乱し、かえって事故多発となる。そこで、それを避けるため、すべて消灯あるいは点滅としているという説明。これは合理的な理由であり、その限りでは納得できる説明である。

しかし、もしそうだとするなら、そのような電力事情の国になぜ電力依存の交通信号機を援助したのか、という疑問が生じる。いくら最新式でも、実際には使いものにならず、邪魔なだけの木偶の坊にすぎない。だから放置され、破壊され、数年もすると見るも無惨な残骸と化す。これは、途上国援助における適正技術の問題である。

### 2. 「人の支配」としてのロータリー式



消灯信号機と仮設ロータリー (タパタリ, 2012.11.18)

しかし、カトマンズの信号機消灯は、単なる技術の問題ではないように思われる。ネパールの主要交差点は、以前は、ロータリー式であった。これは、交差点の中央に円形の台地(ロータリー)をつくり、車は前後左右の他車の動きを見ながら相互調整し、交差点を通過する方式。右回りなど、最も基本的な原則は定められているが、それ以外はすべて運転者のその場の判断にゆだねられる。一見、危なそうだが、実際には事故は少なく、ひどい渋滞もほとんど発生しなかった。交通量が少なかったことを考慮しても、ロータリー式はネパールに適した交差点であったといってよいであろう。

ロータリー式は、交通整理の原理が、信号機とはまったく異なる。信号機は「赤は止まれ」「青は進め」と、機械が一方向的に命令し、強制的に従わせる。それは、合理的なルール(規則・法)の強制であり、客観的な「法の支配」である。これに対し、ロータリー式は、相手(外

見・地位・身分など)とその動きを見て自分の動きを決める、主観的・相対的な「人の支配」である。信号機は、客観的な規則にさえ従えばよいのだから、まったく見知らぬ他人同士であっても、有効に機能する。ところが、ロータリー式は、相手と自分の関係が、瞬時に、多かれ少なかれ了解されるところでないと、うまく機能しない。逆にいうならば、ロータリーがネパールで機能していたのは、ネパ

ールが近代市民社会ではなく 相手との関係を容易に了解しうる伝統的共同社会であったからである。

もしそうであれば、そのネパールに信号機を持ち込んでも、うまく機能しないのは当然である。運転者は、信号よりも、周囲の人々との関係を見計らい、車を運転する。窓口に有力者が来れば手続きが優先処理されるように、路上でも信号よりも人、多かれ少なかれ目上優先である。

### 3. 「ババ事件」の教訓

2005年5月18日の「ババ事件」を思い起こしてほしい。ババさんはJICAシニアボランティア交通指導員。この日、ニューバネスワル交差点で交通指導していると、そこに武装警察総監の車がやってきて、当然のように赤信号を無視し通過しようとした。おそらく、これまでは「総監」だから、警官も誰も、それをとがめなかったのだろう。しかし、「交通規則」遵守を指導するため日本からやってきたババさんは、これを見逃さず、「法の支配」の立場から、毅然として停車を指示した。お供の武装警官は血相を変えて怒り、通せと要求したが、ババさんはいささかもひるむことなく、信号無視した総監に運転免許証の提示を求めた。総監は免許証を持っていなかった。面目丸つぶれの総監は、ババさんに自分の車で役所に行き話をすることを求めたが、ババさんはこれも断固拒否、自分に課せられた交差点での交通指導の任務を続けた。この経緯の一部始終は、取材中のジャーナリストにより目撃され、写真付きの記事となり、新聞で大きく報道された。これにより、ババさんはネパール庶民の喝采を浴び、一躍、時の人となった。

この「ババ事件」は、ネパール文化の基調が依然として「人の支配」であることを何よりも雄弁に物語っている。たとえ交差点に信号(規則・法)があろうが、実際の交通は相手の「人(外見・身分・地位)」をみて調整される。ババさんが喝采を浴びたのは、その「人の支配」のただ中で、敢然と「法(信号・規則)の支配」を貫き、役所での裏取引もきっぱりと拒否したからである。しかし、ここで見落としてならないのは、ババさんは外人だという冷厳な事実である。ババさんが「法の支配」を貫徹できたのは、結局、彼が日本の権威をバックにしていたからであり、また、「法の支配」が、所詮、外国のものであったからにほかならない。

ネパール社会が、このような「人の支配」文化を基調としているとするならば、信号機があっても使われないことも、また信号点灯時よりも消灯時の方が交通がスムーズで渋滞が少ないことも、何ら不思議ではないことになる。あるいはまた、憲法や法律に何を定めようが、実際には、それらはあまり守られることなく、物事はたいてい関係者間の取引により決められてしまうことも、至極当然といってよいであろう。

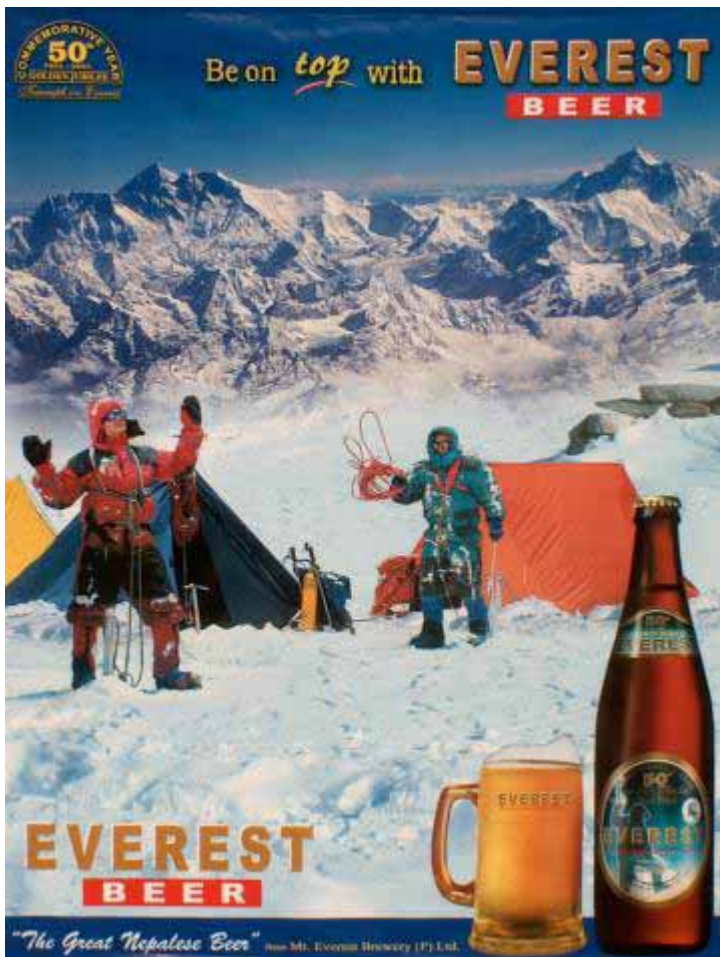
### 4. ネパール文化から学ぶ

しかしながら、これは優劣ではなく、文化の質の違いの問題である。ロータリーと信号、「人の支配」と「法の支配」、共同社会と利益社会。そのいずれがよいかは、一概に言えない。ネパールがいまもって不思議の国であり興味が尽きないのは、原理的に異なる二文化がいたるところで出会い、せめぎ合い、格闘しているからである。私たちはネパールから多くのことを学ぶことができる。近い将来、日本の交差点も、環境を整備しつつ、信号式からロータリー式へと切り替えられていくかもしれない。

恵比寿様も顔負け

ネパールビールあります

一回くらは飲もうよ！ カトマンドゥのビアホールで



左は エヴェレストビールのポスター かわいい  
(アルコール度数は大体5% 味はわりとあっさりしていてまるやかだそうです。  
写真下もネパールビールの名門！  
ネパリアイスビールとゴルカビール



じゃ、つまみはどうする？

やっぱりこれか！ ネパールの餃子モモちゃん



さてお値段のほうですが~ かなりお買い得~  
地元の人と地元の居酒屋で飲むのが一番安い。！  
いまならなんと、1瓶 180円~250円ぐらいで~す！

## 勇気ある行動 純ちゃん先生の一人旅

読者の投稿 純ちゃんのネパール日記

NBSAの会員で、会報誌に2度ネパール旅行記を投稿してくださった小島純子さんに、またまた投稿をお願いしました。題して「4回目のネパール旅行」

私は盲学校で教師をしている全盲の女性です。小学生時代からネパールが大好きで、この冬4回目のネパール旅行をしました。4回ともすべて一人で行きました。全く目が見えていないのに、ひとりで海外に出かけるなんてと、もしかしたらだいぶ驚かれるかもしれませんね。でも毎回安心して旅行を楽しんでいるのです。その理由はふたつあると思います。

ひとつは友達の存在です。私が盲学校の小学部で学んでいたとき、ネパールからの留学生と出会いました。寄宿舎でまるで姉妹のようにすごし、20年近く経った今でも連絡を取り合っています。今回も彼女の家に8泊すべてお世話になりました。ネパールに行って彼女や彼女の家族と過ごすのが、とても楽しみなのです。もうひとつはネパール語が話せることです。ネパール語で意思疎通ができれば、目が見えなくても安心ですし、いろいろな人と会話ができて楽しいです。

ネパールは停電や断水もありますし、日本に比べればまだまだ道なども歩きにくく不便なところがたくさんあります。でも人の心が温かい国でもあります。皆さんも、ぜひネパールに行ってみてください。そして一言でもいいのでネパール語で話しかけ、ネパールの仲間たちと心を通わせてください。(小島純子先生、今回も投稿ありがとうございました。)

### ついでにちょっとお勉強 = ネパール語ってどんな言語？

う～ん、純子先生いわく、「会話ができないと文化は理解しにくい」と言うことですね。中高年者には耳が痛い話。新しい言葉って本当に難しい。耳に残らないんですよ。

ところでネパール語ってどんな言葉でしょうか？ご存知のかたも多いですが ここでは復習です。

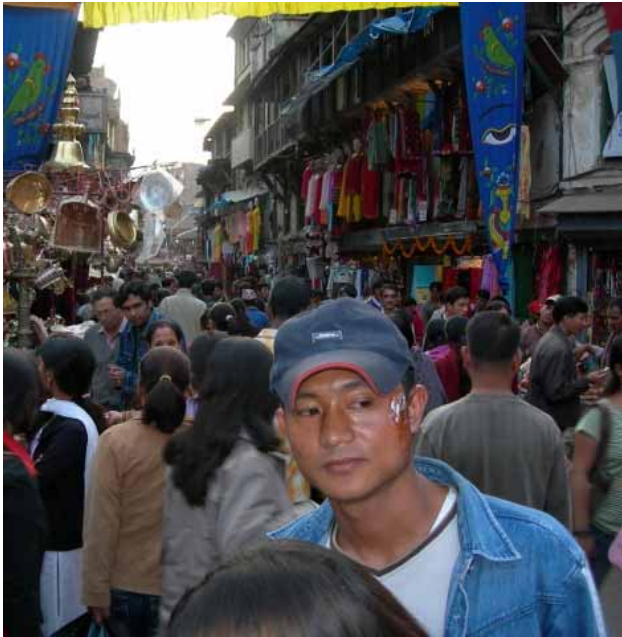
ネパール語 英語だとネパリ。ネパール及びインドのシッキム州でも公用語になっています。

また、ネパールの人口の半分がネパール語を母国語として話します。その他のネパール人は第二言語としてネパール語を話すと言う。う～ん、ほぼ単一民族の日本人には理解が少し難しいですね。またインドでも憲法の第8則に定められた22指定の言語になっています。たま～にゴルカリと言う言葉も耳にします。昔ネパールはカスクラ(ゴルカ地方の意味)と呼ばれていたこともありましたが。たくさんの民族が住むネパール。言葉には以外に保守的と聞いたことがあります。

外来語をあまり混ぜるのを嫌がるのとこと。そういえば 外国人の友だちができる、ネパール人はネパール語の名前を付けるのがすきなようです。ちなみに私のネパール名はラムの恋人の女神のシータです

ふぉほほ。てれちゃうな。(初公開の写真はインドのデリーで撮りました)





## 私が好きなたマンドゥの街角 アッサン

騒然とした、ひとびとのざわめき。まよふここまでごちゃごちゃ品物を並べたもんだ。狭い道にのどの軒からも、ひらひらと衣類や装飾したシーツが舞っている。雑踏が苦手人は敬遠するが、ショッピング派は一度はまったら5時間は戻ってこない。集合時間に遅れて、後で添乗員にしかられる人が後をたたない。

それほどおもしろいのだ。日中そうそう物取りなど出ることはないでしょ。暇があればぜひ寄って行ってください。では、浮き浮き、ドキドキアッサン散策に行ってきます。まずは仏具屋。

日本だと超マイナーですが、ここでは明るい。

毎朝店頭で金メッキのお供え用具やお椀などをチンチン音をたてながら並べる。これも修行やお祈りの一部とは思えないが律儀だなあ。そしてこの界限ほとんどの人がアッサンのアーケードのような集合住宅に住んでいるので、仕事の後も深夜になるまでドンちゃん騒ぎ。そして、たいていの人は、2階以上が民家になっているので、通勤アクセス抜群。約10秒はうらやましい。

では食の便はどうだろう。こっちも完璧。街の辻々に露天の八百屋さんがある。アッサンに並ぶ野菜は、ネパール最大のカーランキの中央卸売市場から運ばれてきたもの。いつもすごく新鮮です。



次の写真は股間を見せたオス山羊。ヒンズー教徒はメスの動物を食べてはだめ。肉屋さんは、肉を売るときちゃんとチンを見せなければいけません。



最後になぞなぞ さて、この魚屋さん なぜクローズアップされたのでしょうか？むむむ～、これは難しい。手前に見えるのは鯉のような、でっかい淡水魚... 正解はでかい魚を出刃包丁に押し付け、程よい大きさに切っているのです。日本だとたいてい物で魚をきりますがね。

アッサンにの住民のほとんどがネワール人。古くからカトマンドゥ盆地に住む誇り高き人々。それでも都会独特のいたずら者もいます。バックを開けたまま歩いたりするのは避けましょう。



## ゴルカ兵の物語より「名もなき兵士」より

1915年2月以来 スエズ湾岸のあるアラブ人の村の郊外に ひとりゴルカ兵が眠っています。彼の死は村が襲撃されている間に訪れました。ゴルカの部隊は夜中に船で到着し 翌日の正午までに戦闘はすべて終わりました。この戦闘で60人以上の敵を倒し、100人を捕虜にしました。このゴルカ兵が埋葬される時、英国海兵隊から葬列儀仗隊が参列し、その海域にいたすべての英国の船は半旗を掲げました。連隊史には埋葬に関して、このゴルカ兵のようなライフルの名手はこれまでいたことがなく、これからも現れそうにない。その名誉を称えて彼らの墓を訪れる、と記されています。第一次世界大戦中は、指揮官は手厚く葬られることはなく、何千もの戦死した兵士はたちまち溝にシャベルで穴に放り込まれて、粗末な式典しか行われませんでした。英国軍の歴史家は、残念なことに誰も個々のゴルカ兵の名前を記録することすら考えていなかった、と言われてています。(記述者不明)

名もなき戦士が埋葬されてもう1世紀近く過ぎたのですね。

中東などなどでゴルカ兵が死亡したニュースを聞くと、国籍が違う私であっても目頭が熱くなります。ゴルカ兵たちは勇敢で誠実であると、行く先々で賞賛を浴びますが傭兵に変わりなく常に前線に駆出されます。また、ゴルカ兵より短期でリスクの少ない工場労働者として、出稼ぎ行く人が後を絶ちませんが、雇用条件など最悪で障がいを追われる場合も多いのです。誰もが自国にいて就労できる日が来ることを祈っています。(渥美よりこ)

## ネパールの視覚障害者を支える会、日本の事務局からのお知らせ

ネパールの視覚障がい者を支える会の事務局が柏市に移って1年になりました。これまではバザーやお祭りの時に、ネパール製品を販売し、ネパールの視覚障がい者を支える会の運営資金をカンパしてきましたが、これからポコアポコの工房にもネパール製品を置くことにしました。

ヒマラヤ山脈原産の「岩塩」とても美味しいと評判です。ぜひ一度ご賞味ください。

千葉県柏市 松葉町 6-8- ポコアポコ作業所内(電)04-7136-0505

Nepal, Nepal, Blind, Support Association(NBSA)

P.O.Box:897、PCN-111 Katmandu Nepal Tel:977-444-6234

日本の窓口:千葉県柏市 松葉町 6-8-1 ポコアポコ作業所内(電)04-7136-0505

NBSA:HP:<http://NBSA.sakura.ne.jp>

維持会費:個人会員年間6,000円、協力会員年間3,000円/法人会員年間15,000円

振込先:口座記号番号振込み番号0190-7-762775(ネパールの視覚障害者を支える会)

ネットニュースのご紹介、

毎月1回配信のNBSA ネットニュースはネパール現地の活動報告のほか、ネパール関連の様々なニュー、、政治状況を掲載しています。ネパールへの渡航状況を知る上で便利。

ホームページ、NBSA:<http://NBSA.sakura.ne.jp/>、をご覧ください。

毎月の配信をご希望の方は直接 [nbsa@mail.com.np](mailto:nbsa@mail.com.np) にお申し込みください。